

# 2000人以上の超過大規模校になる 子母口小と東橋中の合築計画

子どもを育てようか



●住民への説明責任と合意が必要

川崎再生フロンティアプランの第2期実行計画(08、09、10年度)に、子母口小の過大規模、施設狭隘の解消のため、国有地を含めた市営四方嶺住宅跡地への分離新設計画が明記され、市は08年度から取組んできました。とこ

## 学校は長期的視野で考えたい

1 予測超えた生徒増と少人数学級への対応可能か。

●高津区の人口増加は2035年まで続くと予想

実行計画は高津区の人口増加は2035年まで続くと予想。生徒の増加が市教委の推計を短期間に大きく超えた久地小では、校庭にプレハブ校舎を再増築。はるひの小中学校では隣地取得して増築。隣接地がない当地に、予測を超えた生徒増の場合、どうするか質問。

▼教育長は「よりの確に予測を行い、基本・実施設計に反映させる」と答弁。

●少人数学級の教室の確保大丈夫か

文科省は年次計画で中3までの少人数学級の推進を提示、そこまで予測した対応をすべきと質問。  
▼教育長は「国の動向を注視する」と答弁。



るが、10年度に、国有地売却が延期され、新設校が平成30年度以降になる見込みになったとして、急ぎよ、子母口小と東橋中の合築整備へ方針変更しました。合築で日本最大のマンモス校。市は基本方針の変更について住民への周知、説明、変更の是非も含めた意見聴取に力を尽くすべきです。  
引き続き住民説明会の実施を要望  
▼教育長は「3月26日に住民説明会を実施、31名参加。参加者から震災時の学校の果たす役割、引き続きの説明会の開催要望、仮設校舎への通学路の安全対策等の意見がでた」と答弁。地区ごと、保育園、幼稚園への説明会の開催を要望しました。

2 長期的に考えて蟹ヶ谷に小学校が必要ではないか



今年度、子母口小1109名中、蟹ヶ谷地区から422名の生徒が通学。子母口小の過大規模解消のためにも、蟹ヶ谷地区に小学校が必要ではないでしょうか。  
分離新設の検討中にもかかわらず「分離後の子母口小学校に老朽化した余裕教室が残り、近い将来全面改築が必要になる」及び「東橋中学校の施設狭隘化への課題」を合築整備で一挙に解決するとしています。これらの課題は別途対策を講じるべきと考えます。

◆年齢差が大きい小中合築で教育環境は大丈夫か。

6歳から15歳まで、成長発達が大きく異なる児童生徒が、同じ校舎で学び、生活することになるが、教育環境は大丈夫でしょうか。  
▼教育長は「一貫性のある交流や職員研修の展開、中1ギャップの軽減につながる」と答弁。しかし、こうした効果は合築でなくてもできることではないでしょうか。

◆仮設校舎への通学路を歩いてみました。

9月、地域の皆さんと富士見台古墳から四方嶺まで危ない所など確認し、蟹ヶ谷地域の通学路も歩いてみました。「遠くて急坂が多くて大丈夫か」「広い蟹ヶ谷に小学校があれば避難所にもなる」などたくさん感想ができました。



通学路を歩きました

子母口住宅から仮設校舎予定地までの高低差は37mあり、大人でさえ結構きつい道のりで、7歳前後の子どもたちが、毎日大きなランドセルを背負って通いきれないように思います。実際に歩いてみて教育委員会は子どもにとって大変困難なことを計画しているんだなと思いました。道のりが遠いだけでなく、車の出入りで危険な所があったり、起伏が激しかったりします。四方嶺はとても環境の良いところでした。当初の分離新設校として開校できたら、蟹ヶ谷に住む子どもたちにとって、待望の学校ではないかと思えます。  
(一緒に歩いた峯松千津子さんより)

◆どうなる国家公務員宿舎の廃止再編計画

財務省は、国有地国家公務員宿舎の廃止再編計画の公表は、6月までに行うとしていましたが、東日本大震災の影響で、12月に延期になったとのことでした。  
こどもの豊かな成長・発達を保障する教育環境をどうつくるのか、合築か、分離新設かの根本問題を含めて、保護者、学校関係者、地域住民の話しあい、住民合意を得ながら進めるべきではないでしょうか。  
皆さんのご意見をお寄せ下さい

